

第 I 期 正面幕（鳳凰と応龍の尾・雷文図） 事業報告

令和元年より 4 年の歳月をかけて正面幕（鳳凰と応龍の尾・雷文図）を復元新調いたしました。

下記に正面幕の復元新調の詳細についてご報告申し上げます。

事業期間 : 令和元年 7 月～令和 3 年 3 月末

事業費 : 11,300,000 円（税別）

施工業者 : 株式会社川島織物セルコン



復元新調前



復元新調後

正面幕 監修・検討会の詳細

令和元年度	
7 月	<ul style="list-style-type: none">・旧幕 4 枚を株式会社川島織物セルコンへ貸出。・正面幕の下絵制作と全体的な刺繍技法の調査を進めた。
9 月	<p>専門家による監修</p> <ul style="list-style-type: none">・正面幕の下絵完成ならびに概要の調査を実施。・旧幕 4 面を並べ、金糸の太さの比較見本や今までに製作した刺繍試作をもとに、全体的な刺繍技法と表現について検討。

10月	<p>下絵寸法の確定のため、山車の採寸を実施</p> <p>関係者全員立ち合いの製作検討会を実施</p> <ul style="list-style-type: none">・正面幕ならびに両側幕の下絵を検討。・大幕製作当初に比べて金糸の種類が少なく、純度の高い金糸が製造されていないため、3種類の金糸を使用し、金糸を綴じる糸の変化で色差をつけて刺繍表現をおこなうことを決定。
2月	<p>製作検討会を実施</p> <ul style="list-style-type: none">・刺繍台に張った刺繍パーツを並べ、正面幕全体の金糸の刺繍技法、純度、太さ、綴じ糸の組み合わせの監修を受ける。
3月	<p>専門家による監修</p> <ul style="list-style-type: none">・応龍の尾の刺繍試作の監修を受ける。・応龍の腹の刺繍試作については背との対比が欲しいので綴じ糸を変えて試作すること、背と棘の境界については粗い感じがするので再検討するよう指摘。 <p>製作検討会を実施</p> <ul style="list-style-type: none">・鳳凰の顔部分の金糸の選定のため、4月に国立京都博物館にて再度金糸の成分分析をおこなって検討することが決定。



東町布袋車大幕復元新調事業-第 I 期事業報告

令和 2 年度	
7 月	<p>専門家による監修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目玉金属ならびに刺繍金糸の金属分析を実施。 ・刺繍完成パーツを組み合わせ、金色バランスを確認。
11 月	<p>専門家による監修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属分析の結果を踏まえて、金糸と綴じ糸の組み合わせと金色バランスについての監修をおこなう。
3 月	令和 2 年度末の進捗確認と完成パーツの検収を実施。



令和 3 年度	
5 月	専門家による目玉金具・菊菱金具、菊座金具（丸菊）の下絵監修。
6 月	専門家による鳳凰の目玉金具、菊座金具の試作品の監修。
7 月	越前の刺繍工房にて専門家による刺繍進捗状況の検収、金具試作の監修。
10 月	東町山車庫にて、名古屋市教育委員会・有松天満社文嶺講立ち合いのもと模型幕の懸装調査。
12 月	越前の刺繍工房にて専門家による目玉金具の検収、菊菱金具・菊座金具の形成の監修。
1 月	鳳凰の目玉金具を刺繍に取り付け。
2 月	<p>上旬、専門家による菊菱金具・菊座金具の形成の監修。</p> <p>下旬、専門家による刺繍仕上がり検収。</p>
3 月	<p>中旬、専門家による完成検収。</p> <p>下旬、名古屋市教育委員会・有松天満社文嶺講立ち合いのもと納品・懸装。</p>

